

藤枝市文学館企画展

小川国夫と司修

つかさ おさむ

二人が描いた『悲しみの港』

それで今、

僕はこの幻でしかなかった

避難港から出港しようと

夢みている。

旅人の僕に、

遠くから吸引力が

働きかけてくるんだ。



2019年 4月6日 土 ~ 5月26日 日

藤枝市郷土博物館・文学館

〒426-0014

静岡県藤枝市若王子500番地(蓮華寺池公園内)

[TEL] 054-645-1100

[FAX] 054-644-8514

[Eメール] muse@city.fujieda.shizuoka.jp

藤枝市郷土博物館・文学館



[休館日] 月曜日(但し、4/22・29、5/6は開館)、5/7(火)

※藤まつり期間中(4/20/～5/5)は毎日開館、無料で入館できます。

[開館時間] 午前9時～午後5時

[入館料] 大人(一般)200円、(団体20名以上)160円

中学生以下無料、障害者手帳等をご提示の方と必要な介助者は無料

——ともあれ、思い切って、雲行きの険しい海へ、
低く舟歌をうたいながら、乗り出して行ってみよう。——

(新聞連載予告・作者の言葉より)

『悲しみの港』は、平成3(1991)年11月1日から平成4(1992)年9月30日まで、「朝日新聞」夕刊に271回にわたり連載され、平成6年に、第5回伊藤整文学賞を受賞した、小川国夫の青春文学の代表作です。

新聞連載の際に、小川たつての希望で挿画を担当したのが、画家であり装丁家でもある司修です。元々ふたりは親交が深く、小川国夫全集の装丁を手掛けたのも司でした。

藤枝を中心とした大井川流域を舞台に、物語は展開します。作家・小川国夫が描いた故郷藤枝の姿と、画家・司修が何度も足を運んで描いた藤枝の姿を、直筆の原稿と原画でお楽しみください。

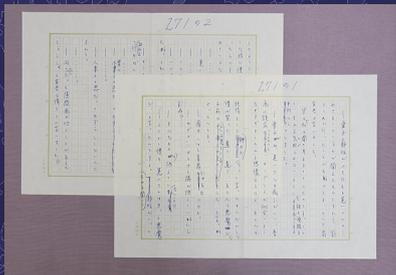
また、自身も絵を好んだ小川が、「枯木」の号で描いた「小川漫画」も特別に展示します。



挿画・藤枝駅前(司修画)



挿画・蓮華寺池(司修画)



小川国夫直筆原稿「悲しみの港(最終話)」



小川漫画



小川 国夫 — 作家 —

おがわ くにお (1927-2008)

静岡県藤枝市生まれ。1950年東京大学文学部入学。大学在学中にフランスへ私費留学。藤枝市で生涯執筆活動を続けた。著書に『悲しみの港』、『アポロンの島』、『逸民』などがある。

司 修 — 画家・装丁家・作家 —

つかさ おさむ (1936-)

群馬県前橋市生まれ。独学で絵を学び、画家として小説家として、また装丁家としても活動している。装丁では、小川国夫はじめ、大江健三郎、水上勉などの作品を手掛け、「司さんの装丁でない本が売れない」とまで言われている。

関連イベント

司修氏記念講演会

『悲しみの港』創作
当時を振り返り、
小川国夫との思い出を
語ります。



©朝日ぐんま

- 日時** 4月6日(土)
14:00~15:30
- 場所** 文学館講座学習室
- 講師** 司修氏(画家・装丁家・作家)
- 定員** 60名
- 入館料** 200円(中学生以下無料)
- 申込み** 電話・メール・FAXで、
郷土博物館・文学館まで

小川光生氏記念講演会 「父・小川国夫と古典文学」 — 平家物語、聖書、ダンテ神曲 —

古典文学をめぐって、
父・小川国夫との思い出を
語ります。



- 日時** 5月25日(土) 14:00~15:30
- 場所** 文学館講座学習室
- 講師** 小川光生氏
(大阪芸術大学文芸学科特任教授)
- 定員** 60名
- 入館料** 200円(中学生以下無料)
- 申込み** 4月16日(火)より、
電話・メール・FAXで、
郷土博物館・文学館まで

ギャラリートーク 「小川国夫の内緒ばなし」

小川国夫と交流のあった当館職員が、
エピソードや小川語録を交えて、
その作品世界を紹介します。

- 日時** 4月20日(土)、27日(土)、
5月4日(土)
11:00~、14:00~
(1時間程度)
- 場所** 文学館展示室
- 案内** 澤本行央(当館職員)
- 定員** 20名
- 入館料** 無料
- ※申込み不要。直接会場へ。